



テレジンを語る会いばらき おたより

モティール

No.05 2013.3発行

※モティール・・・チェコ語で蝶

テレジンの子どもたちから～連続講座とパネル展

テレジンの子どもたち、そして大人たちのことをもっと知りたい。

2011年秋の「テレジン収容所の小さな画家たち展」とその後の報告会、野村路子さんの講演会を経て、テレジンの子どもたちとそれを支えたフリードル先生のことを学びました。少しずつでも、あの子どもたちの心の叫びと願いに答えてあげられたらどんなによかろうになあ・・・。

2013年はちょっとだけ視点を変えて「テレジンの子どもたちから」と題して、男の子の家「L417」1号室でペトル・ギンズ君らがナチスに隠れて発行していた雑誌『VEDEM』について、そして同じ1号室

の仲間でテレジンからアウシュヴィッツに移送され、生きのびた少年ジョージの物語を中心に、テレジンを考えてみようといくつかの企画を立てました。

大人が作った社会で否応なく生きて行かざるをえない子どもたちに対して、未来を夢見て成長できるよう、そして希望を抱けるよう知恵と力を砕くのが大人の役目だと思います。しかし、強制収容所という過酷な状況の中でいかにして子どもを「人間らしく」教育することが出来たのか？アイシングル先生は、不安と恐怖を抱えているからこそ、むしろ



「子どもらしく」考えさせることだったのかなあ？なんて考えます。今の情勢とも比して想いが交錯します。林幸子さん、石岡史子さんのお話を聞き、パネル展に足を運んで一緒に考えてみませんか？

2013年3月 福島原発事故から2年です。

「テレジンの子どもたちから」 ～連続講座とパネル展～

① 3月17日(日) 講師:林幸子さん
「テレジンの子どもたちから」-ナチスに隠れて強制収容所でごんばった子どもたち

② 4月13日(土) 午後2時～4時
講師:林幸子さん
「テレジンの子どもたちのその後」-戦後子どもたちはどう生きたか? —

③ 5月8日～12日
「生きのびた少年ジョージの物語」
「プラハ・テレジン・アウシュヴィッツ」パネル展
会場:中央公園内つくば市民ギャラリー

☆ 5月11日(土)
市民ギャラリー内でお話し会 講師:石岡史子さん
生きるための優しさと強さを育む
～「ハンナのかばん」と
収容所を生きぬいた少年ジョージの物語～

(詳細は4ページ)



2012年の活動報告

・2012年2月25日(土)

「テレジン収容所の小さな画家たち展」報告会と懇談会

会場：つくば市市民活動センター

・2012年3月11日(日)

「つくば市民活動フェスティバル」に参加

会場：ノバホール前のセンター広場

・2012年4月7日(土)

野村路子講演会

「フリードル先生とテレジンの子どもたち」

会場：アルスホール

・2012年4月15日

「笑顔市」に参加

会場：デイズタウン

・2012・7月20日(金)

「チェコ音楽を廻るチェロコンサート」に合わせて

「ハンナのかばん」パネル展

会場：ノバホールのホワイエ

・2012年11月24日

「つくば市民活動フェスティバル」に参加

会場：ノバホール前のセンター広場



野村路子講演会アンケート紹介

2012年4月7日「野村路子講演会「フリードル先生とテレジンの子どもたち」が
つくば市アルスホールでありました。沢山のアンケートの中から紹介します。

じっくり野村路子さんのお話を聞くことができるとても感動しました。13年前に野村先生の本に出会って、私の人生が変わりました。「フリードル先生のような人になりたい!」という思いで、ずっと夢を描いてきました!なので直接お話を聞くことができた今日は本当に特別でした!ありがとうございました。(20代 女性)

とても貴重な話でした。

アウシュビッツ収容所に行ったことがあり、ユダヤ人のこと、命の大切さや戦争のことなど、とても関心を持っています。これからも、たくさん広めていくべき大切なことです。(40代 男性)



アメリカのリンカーンホールで歌った高校生(女子)のメッセージが良かった。『子どもたちのために大人ができること』を日常の中で考えながら生活していきたいと思いました。小さいことでも(から)実践に結びつけていきたいと思いました。(60代 女性)

いま、出来ることを精一杯しよう。あらためて、強く感じました。(60代 女性)

テレジンの子どもたちや先生を見て、私たちがどのように行動できるか、未来に何かつなげてい

けたらと思いました。(40代 女性)

子どもたちは今生きる力が弱っていると言われていています。今日のようなお話をぜひ、子どもたちに伝えて欲しいと思います。子どもたちに熱中できるものを大人が与える必要があるというお話が心に残っています。それを心がけていきたいと思います。野村先生、いつまでもお元気で大切なお話を伝え続けて下さい。

(60代 女性)



昔語りではないこと……自分の人生に引きよせて、命を大切にしたいですね。

伝える(上から目線ではなく、共に生きることの実践者として野村さんの言葉に力づけられました。(70代 女性)

もっとたくさんお話を聞きたかった。テレジンの子どもたちと、東北の子どもたちは無縁ではないという話だった。日本の子どもを心配してくれる気持ち。強い、深いものを感じた。(40代 女性)

はじめて野村路子さんからテレジンの子どもたちのおはなしを聞きました。聞いているうちに涙が出てきて。石巻の子どもたちの絵も、いろいろなことがあったのにしっかり絵を書いている。力強

さを感じました。でも心の中は複雑かな?(60代 女性)

東北の子どもたちのことを心配して、野村先生にメールをくださったテレジンの子どもだった人たちがいらしてくれて、感謝の気持ちでいっぱいになりました。「生きていてよかった」という言葉の重さが、ズッシリします。東北の子どもたちにも伝わってほしいことばです。(50代 女性)

被災地の子どもたちに、絵をかきことが生きる力、希望になっていることを知って、うれしいです。テレジンを語る会が日本でずっと継続されますように。

もし、実行委員会でお手伝いすることがありましたら声をかけて下さい。

フリードル先生の物語は絵本にもあります。なかなかすばらしい絵で、台湾でも出版されています(30代 女性)



石巻の子どもたちとテレジンの子どもたちのつながり、野村さんがフリードル先生になればと考えると、された活動、宇宙ステーションへこの絵が送られること、苦しみや悲しみの中にいる子どもたちに何が出来るかは、今ある大切な課題だと思えます。(50代 女性)



ナチスの強制収容所で、なかまと助け合い、学び合い、生きぬいた子どもたち

連続
講座

講師：林幸子さん

3/17(日) 開場：午後1時半／開演：2時～4時

「テレジンの子どもたちから」
—ナチ스에隠れて強制収容所でがんばった子どもたち—
会場：茨城県県南生涯学習センター（土浦駅前ウララ5階）

4/13(土) 開場：午後1時半／開演：2時～4時

「テレジンの子どもたちのその後」
—戦後子どもたちはどう生きたか？—
会場：土浦一高旧本館復元教室（土浦市真鍋4-4-2）

パネル
展示

「生きのびた少年ジョージの物語」
「ブラハ・テレジン・アウシュヴィッツ」

5/8(水)～12(日) 入場無料

つくば市民ギャラリー
（つくば市吾妻2-7-5 中央公園内）

午前9時30分～午後5時
*初日は正午より、最終日は午後3時30分まで

市民ギャラリー内でお話し会 講師：石岡史子さん

5/11(土) 午後2時～4時

「生きるための優しさと強さを育む」
—「ハンナのかばん」と収容所生きぬいた
少年ジョージの物語—

テレジンの子どもたちについて、著作をだし、講演活動等を繰り広げている林幸子さんと石岡史子さんをお招きし講演会と展示会を企画しました。林さんは、テレジンのユダヤ人強制収容所で子どもたちがナチス・ドイツに隠れて出していた雑誌『VEDEM』を翻訳し紹介した人です。また、地元土浦市の出身でもあります。今回は、二回に渡って、土浦市で講演をしていただきます。石岡史子さんは、『ハンナのかばん』の訳者であり作中人物です。国内外の小中学校や子ども劇場などでの訪問授業やワークショップ、パネルの貸出しなどを行ない、命と人権の教育活動を年間100ヶ所で行っています。わたしたちは、このお二人の平和の使者を迎えて、参加者と共に現在の問題として「テレジンの子どもたちから」平和の問題を考えて行きたいと思います。

連続講座とパネル展 2013
テレジンの子どもたちから



◎主催：テレジンを語る会いばらき <http://teresien-ibaraki-jimdo.com/>

◎後援：茨城県、土浦市、つくば市、茨城県教育委員会、土浦市教育委員会、つくば市教育委員会、つくば子ども劇場

◎協賛：常総生活協同組合 ◎資料・写真提供：林幸子、石岡史子、NPO法人ホロコースト教育資料センター(kokoro)

◎連絡先：tel&fax 029-823-3484(関谷) 029-856-2286(長田)

つくばのMOGとQ'tの間の通路、1階、宝くじ売場の向かい側に、ちょっとしたスペースがあります。その壁側のプラザ・パフォーマンスギャラリーに「テレジンの子どもたちから」のお知らせのための展示をしました。お買い物のついでにぜひ立ち寄り見て下さい。3月31日まで。